

言語習得はどこまで社会的か?

—社会学習とCDS 研究のメタ分析から迫る言語習得の姿—

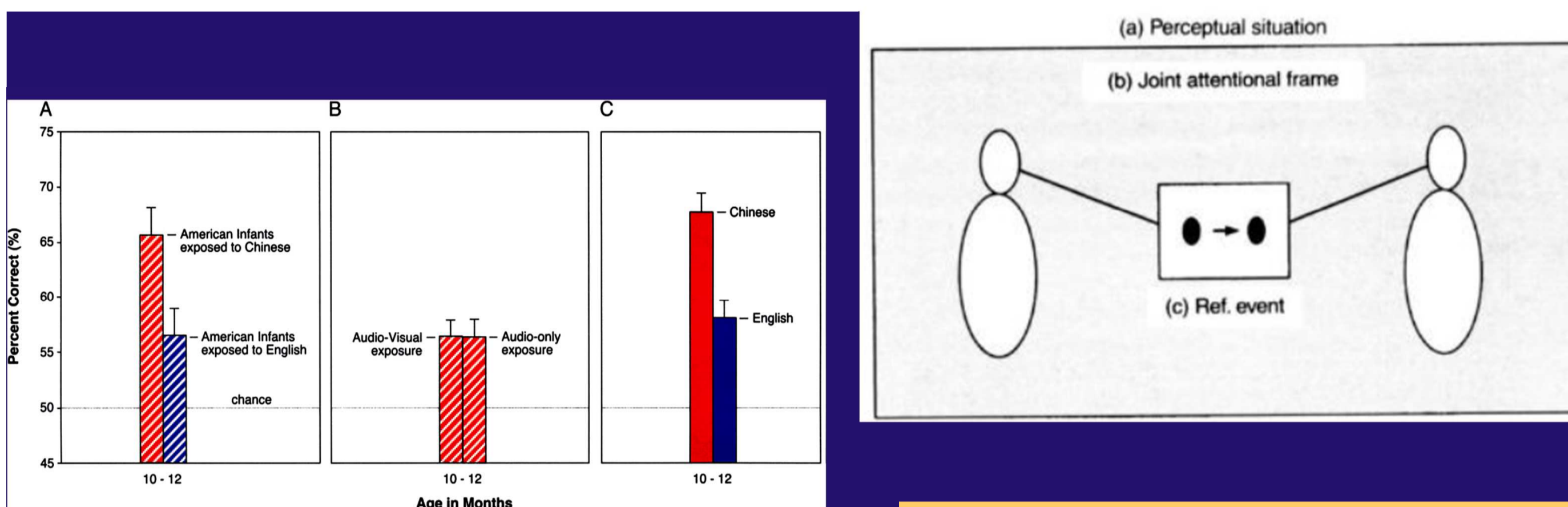
吉川 正人 (慶應義塾大学)

- 言語習得 = 「社会的な学習」とされる → 何がどこまで社会的か?
- 「社会的要因が不可欠」とする研究 vs 「社会的要因不要」とする研究 = 矛盾
- この矛盾を解消するための要点整理 → 結論: 「注意」こそが主たる要因

概要

社会的な学習としての言語習得

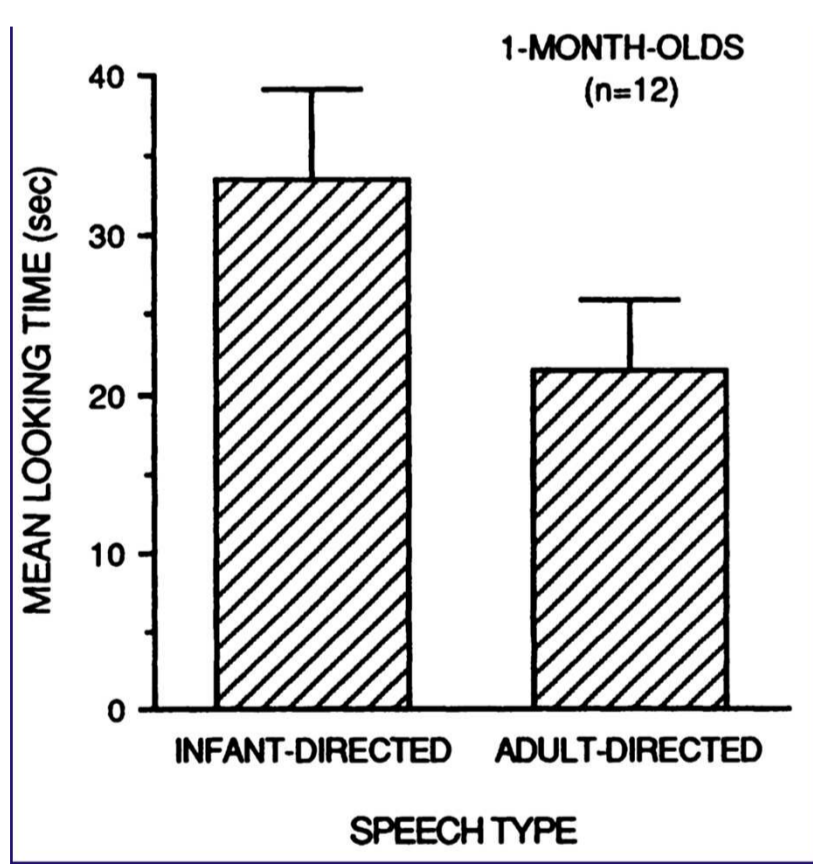
Tomasello (2003): 「共同注意 (joint attention)」を中心とした「他者の意図を理解する」能力が言語習得の基盤



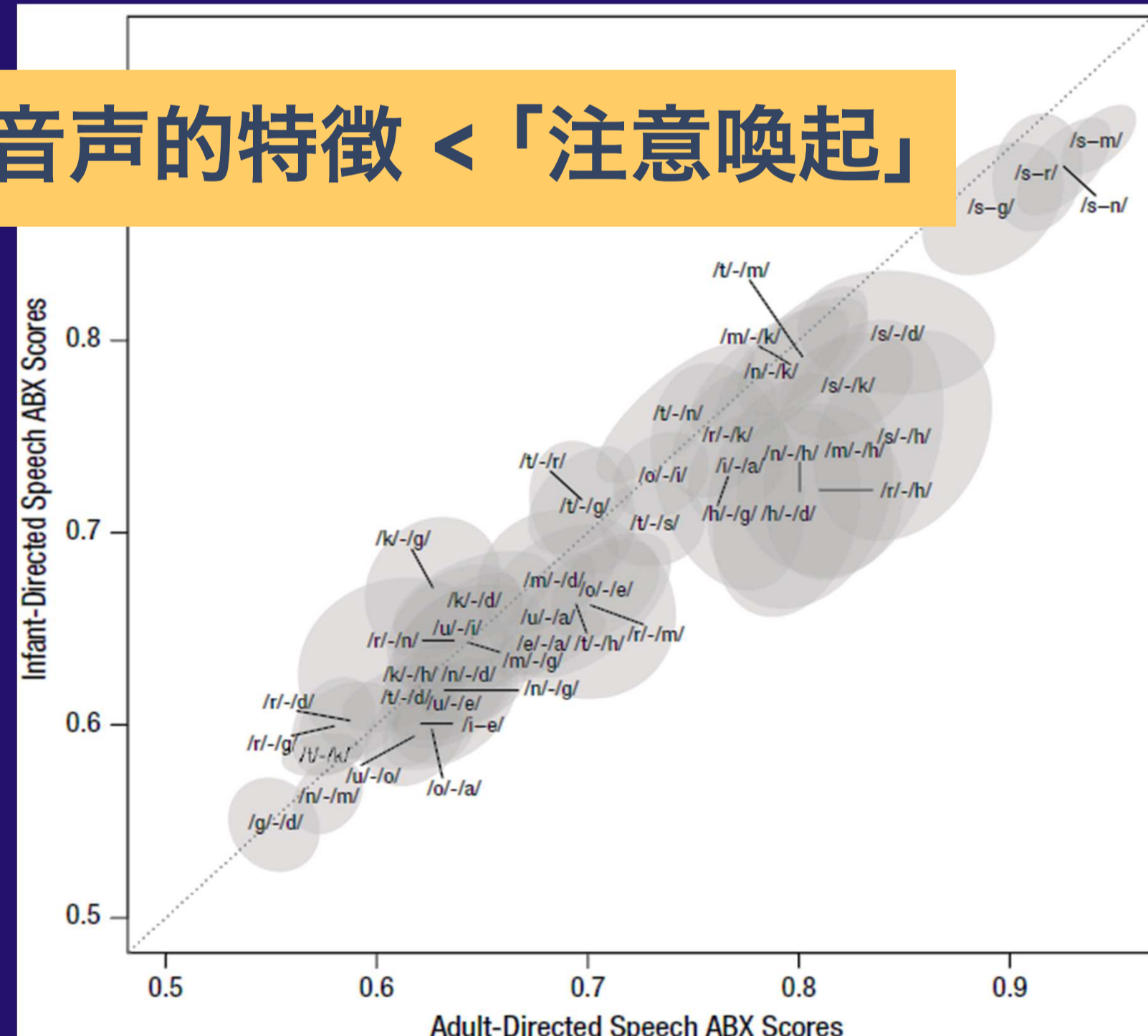
Kuhl et al. (2003): 音素の獲得には他者とのインタラクションが必要
 学習素材への「注視」の度合いが映像や音声のみの条件よりも対人条件の方が有意に高い

Child Directed Speech

Cooper & Aslin (1990): Child-directed speech (CDS) は有意に子供の注意を引き付ける



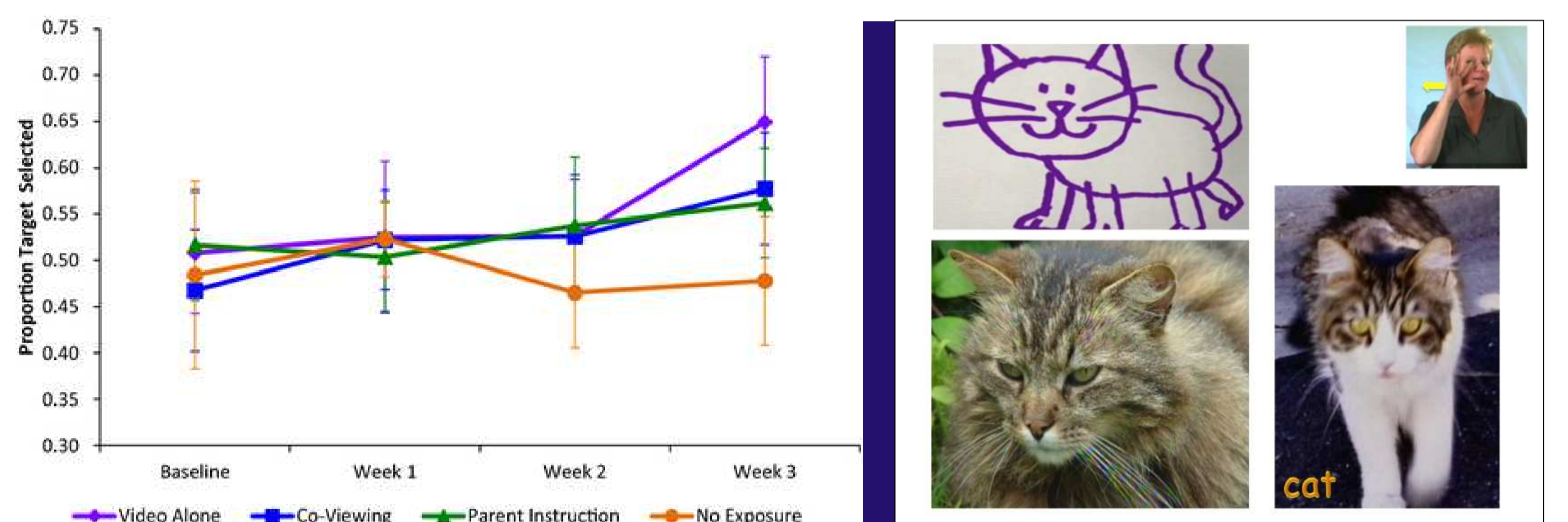
音声的特徴 < 「注意喚起」



Martin et al. (2015): CDSよりも大人同士 (adult-directed) の方が僅かながら発音が明瞭 (= 類似音の差別化が顕著)

社会的要因不在の言語習得

Dayanim & Namy (2015): 市販の動画教材のみでベビーサインの習得が可能 = 対人インタラクションは不要

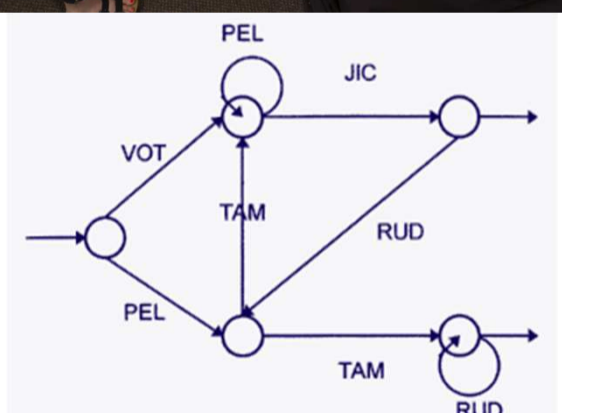


Akhtar & Gernsbacher (2007):

- 共同注意無しでも語学習は可能 (自閉症児・ウィリアムズ症候群児の症例)
- 共同注意が可能な度合いと語学習の程度は相関しない (ダウン症児の症例)
- = 共同注意は語学習の必要条件でも十分条件でもない

人工言語習得 (Artificial Language Learning) 研究: スピーカーから流れる音声 / モニターに映る映像のみから「言語」の学習が可能

- Saffran et al. (1996):** 音声パターンから無意味語の単語境界を学習
- Gomez & Gerken (1999):** 無意味語から構成される有限状態文法の学習
- Saffran (2002):** 「予測」関係を持つ無意味語からなる句構造文法の学習 (映像&音声使用)



「注意」 > 社会的要因

- Kuhl et al. (2003):** 社会的要因 (対人インタラクション) の効果と「注意」の効果を分離不可能 → CDSが注意を喚起するために対人インタラクションの効果が表れる?
- Tomasello (2003) vs Akhtar & Gernsbacher (2007):** 「共同注意」 < 「注意」
- Dayanim & Namy (2015):** 動画教材が注意喚起に成功?

- Krcmar (2011):** 動画教材を用いた語彙学習の不可能性を示す & 被験者の注意の度合いと学習度合いには相関無し
- Dayanim & Namy (2015)** はベビーサイン = 視覚モダリティに特化 → 何らかの影響?

課題

